

## 共同研究

(二〇一二年四月一日〜九月三〇日)

### 文明と身体

(研究代表者 牛村 圭、幹事 劉 建輝)

#### [共同研究員名]

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川本玲子、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、竹村民郎、永井久美子、西原大輔、平松隆円、古川優貴、山中由里子、稲賀繁美、井上章一、白幡洋三郎、フレデリック・クレインス、郭南燕、堀まどか、楊爽

#### [海外共同研究員名]

眞嶋亜有

#### [研究発表]

#### 〈第一回研究会〉

二〇一二年七月二八日

牛村 圭「本共同研究会展望と今後の課題」

永井久美子「病と絵巻制作——後白河院を例に」

福田眞人「結核を文明と身体から読む」

#### 討論

### 人文諸学の科学史的研究

(研究代表者 井上章一、幹事 瀧井一博)

#### [共同研究員名]

今谷明、上島亨、上村敏文、鶴飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小路田泰直、斎藤成也、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、シルヴィオ・ヴィーダ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、林淳、荒木浩、伊東貴之、倉本一宏

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年六月二日

井上章一「学問を左右する、かならずしも学問的とはい  
がたいさまざまな力のかかりについて」

討論

〈第二回研究会〉

二〇一二年八月三〇日

井上章一「親鸞らに、プロテスタントイズムを幻視して」

今谷 明「権門体制論の概略」

二〇一二年八月三一日

上島 享「鎌倉新仏教論と顕密体制論」

林 淳「鎌倉新仏教論と歴史学」

日本庭園のあの世とこの世―自然、芸術、宗教

〔研究代表者〕 白幡洋三郎、幹事 榎本 渉

〔共同研究員名〕

小野健吉、鈴木久男、田中淡、錦仁、原口志津子、原田信  
男、飛田範夫、日向進、水野杏紀、村井康彦、吉澤健吉、  
山田邦和、多田伊織、荒木浩、ウィーベ・カウテルト、町

田香

〔海外共同研究員名〕

蔡敦達、陸留弟

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年六月二日

白幡洋三郎「趣旨説明―日本庭園のあの世とこの世」

村井康彦「『池亭記』をめぐる」

討論

〈第二回研究会〉

二〇一二年六月三〇日

白幡洋三郎「作庭記研究の視角」

飛田範夫「『作庭記』原本と谷村本との相違」

原口志津子「絵画『資』料研究の現在」

討論

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月八日

水野杏紀「『作庭記』に記された方位観と禁忌に関する考

察―中国の『宅経』・『風水書』を踏まえて―」

榎本 渉「谷村本『作庭記』奥書の花押について」

陸 留弟「江南の庭園と日本」

討論

二〇一二年九月九日

シンポジウムに向けてのプレ発表

怪異・妖怪文化の伝統と創造―研究のさらなる飛躍に向けて

―  
（研究代表者 小松和彦、幹事 山田奨治）

〔共同研究員名〕

アダム・カバット、今井秀和、香川雅信、木場貴俊、小林健二、近藤瑞木、齋藤真麻理、佐々木高弘、清水潤、志村三代子、高橋明彦、堤邦彦、常光徹、徳田和夫、永原順子、正木晃、安井眞奈美、横山泰子、大塚英志、飯倉義之、中野洋平、徳永誓子

〔海外共同研究員名〕

マーク・オンブレロ、魯成煥、朴銓烈、マティアス・ハイエック

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年五月二六日

大谷 哲「都市に生き延びる異界 内田百閒―『旅順入城

式』を中心に」

西川貴子「露伴作品にみる怪異」

〈第二回研究会〉

二〇一二年九月一四日

市川寛也「地域社会に還元される妖怪文化―二〇〇〇年代

以降の妖怪まちづくりの動向を踏まえて」

王 鑫「中日妖怪文化比較研究のための予備的考察」

二〇一二年九月一五日

永原順子「絵金の『おどろ』が語るもの―高知県香南市赤岡町の取り組みを中心に」

正木 晃「異形の系譜―密教における真理と恐怖の造形」

現代民俗研究方法論の学際的研究

（研究代表者 山 泰幸、幹事 小松和彦）

〔共同研究員名〕

石田佐恵子、岩本通弥、浮葉正親、門田岳久、阪本俊生、菅康弘、橋弘文、船戸修一、法橋量、山中千恵、梁仁實、飯倉義之

〔研究発表〕

## 〈第一回研究会〉

二〇一二年六月九日

山 泰幸「異人論の展開―ストレンジャーの社会学に向ける―」

橘 弘文「膏取り一揆における異人観」

浮葉正親「異人論から見た韓国の巫俗（シャーマニズム）」  
質疑応答

## 夢と表象―メディア・歴史・文化

（研究代表者 荒木 浩、幹事 マルクス・リュッターマン）

## 〔共同研究員名〕

安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛治恵、加藤悦子、河東仁、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏哉、丹下暖子、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀子、松蘭斉、松本郁代、室城秀之、木村朗子、伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、箕浦尚美、中川真弓

## 〔海外共同研究員名〕

ヨーク・B・クヴェンツァー、李育娟、イヴ・コヴァチ

## 〔研究発表〕

## 〈第一回研究会〉

二〇一二年四月二日

平野多恵「明恵の夢と和歌」

木村朗子「中世物語における夢の文法」

二〇一二年四月二日

楊 暁捷「盛久の夢―『清水寺縁起』の一場面から絵巻の読み方を考える―」

デイスカッション及び本年度研究会の計画についての討議  
等

## 〈第二回研究会〉

二〇一二年七月一日

中川真弓「念仏房の夢―『菅芥集』所収願文と『法然上人行状絵図』」

池田 忍「絵巻にみる女性の夢と参詣―歴博本『うたたね草紙』と『石山寺縁起絵巻』を手がかりに」

二〇一二年七月一日

松本郁代「花園院と夢想―持明院統の皇位継承をめぐる―」

デイスカッション及び研究会推進についての討議等

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月一五日

林 千宏「描写・記憶・夢―ルネサンス・フランス詩における視覚表現の諸相」

福島恒徳「いわゆる夢中感得像をめぐる」

二〇一二年九月一六日

ヨーク・B・クヴェンツァー「夢の概念―比較論の一つの試み」

ディスカッション及び研究会推進についての討議等

デジタル環境が創成する古典画像資料研究の新時代

〔研究代表者 楊 曉捷、幹事 小松和彦〕

〔共同研究員名〕

赤間亮、石川透、海野圭介、大谷節子、大向一輝、大場利

康、小峯和明、千本英史、田良島哲、藤原重雄、荒木浩

早川聞多、山田奨治、森洋久、ギャリー・ジェームズ・

ヒッキー

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年四月七日

森 洋久「日文研の新しいデータベースの方向性と構造について」

ついで

小松和彦「日文研怪異妖怪関係データベースをめぐる」

二〇一二年四月八日

ローレンス・マルソー

千本英史「小規模大学での画像公開の取り組みと種々の危

惧事項について」

打ち合わせ

〈第二回研究会〉

二〇一二年五月一二日

村田良二「東京国立博物館の資料情報管理」

田良島哲「東京国立博物館の画像情報活用」

「ミニ・シンポジウム」や出版についての打ち合わせ

二〇一二年五月一三日

楊 曉捷『ウエキ絵巻』から見る小規模データベースの

構築」

藤原重雄「中世史研究における史料画像のデジタル環境―

個人的観察―」

〈第三回研究会〉

二〇一二年六月二日

大谷節子「仮面データベースの課題と可能性——附、喜多

文庫民俗芸能、沖繩祭祀、謠本版木、明治初年能番組

各データベースの紹介」

小峯和明『『日本常民生活絵引』の再生——絵画物語論のために』

二〇一二年六月三日

荒木 浩「〈国文学〉のミレニアム」

ミニ・シンポジウム「デジタル環境と古典・画像資料研究の

現在と未来」

### 建築と権力の相関性とダイナミズムの研究

〔研究代表者〕 御厨 貴、幹事 井上章一

〔共同研究員名〕

五十嵐太郎、池内恵、小宮京、佐藤信、砂原庸介、手塚洋輔、中村武生、奈良岡聡智、牧原出、松宮貴之

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年五月二六日

御厨 貴「私はこの研究会で何をめざすのか」

自己紹介および展望報告

相互討論

〈第二回研究会〉

二〇一二年八月二日

小宮 京「大阪市警視庁の興亡」

手塚洋輔「戦後宮内庁宮繕行政の展開——組織と技術の交錯

——」

仕掛けと概念…空間と時間の日仏比較建築論

〔研究代表者〕 フィリップ・ボナン、幹事 稲賀繁美

〔共同研究員名〕

セシル・アサヌマリブリス、阿部順子、江口久美、加藤邦男、ブノワ・ジャック、千代章一郎、マニユエル・タルディッツ、田路貴浩、土居義岳、西田雅嗣、波嶋栄ジェニファ、しょう子、シルヴィー・ブロッソー、クリステイヌ・ヴァンドレディリアザノー、ジャーク・プズーリマサビユオ、松原康介、松本裕、三宅理一、渡邊一正、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

マルク・ブルディエ、ニコラ・フィエーヴ、コリン・ティリッオノ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

第四三回国際研究集会「日仏の空間語彙・概念と仕掛け」

二〇一二年五月一日

ニコラ・フィエーヴ「平安庭園での季節の表象と祝賀」

寺戸淳子「黄泉と西方浄土」

ミュリエル・ラディック「時間・流れ・くさ」

セシル・アサスマルブリス「長屋と社宅」

安田結子「外国人居留地、避暑地」

土居義岳「パブリック・スペース、公共空間の概念」

エマヌエール・マレス「露地」

江口久美「街づくり・住民参加のウルバニズム」

ブノワ・ジャック「巡礼道から聖なる建築へ・都市計画」

パトリシア・マルミニョン「町内会、町、都市発展」

二〇一二年五月二日

稲賀繁美「日本空間性における時間」

松本 裕「田園都市」

マニユエル・タルディッツ「地区、町番地、さまざまな建

築制限」

ギャリー・ヒッキー「西洋透視図法と日本のヴィジョン」

マリー・オジャンドル「共存―災害・防災の空間システ

ム」

シルヴィー・ブロッソー「結界と想像性・名所について」

ウルスラ・ヴィーゼル「ひもろぎ、しめなわ」

マルク・ブルディエ「同潤会・木造建築」

松原康介「城下町、部落」

ファビアン・デュエルオガワ「カミ、墓、ハレとケ」

近代日本における指導者像と指導者論

〔研究代表者 戸部良一、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、猪木武徳、河野仁、黒澤文貴、佐古丞、佐藤

卓己、庄司潤一郎、武田知己、中西寛、奈良岡聡智、野中

郁次郎、畑野勇、波多野澄雄、小川原正道、楠綾子、牛村

圭、鈴木貞美、松田利彦

〔海外共同研究員名〕

黄自進、フレデリック・ディキンソン

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年四月一日

黒沢文貴「戦後の日本近代史研究の軌跡」

波多野澄雄「サンフランシスコ講和体制と『歴史問題』」

二〇一二年四月一五日

河野 仁「現代の軍事リーダーシップ—ポストモダン軍隊

論とCOIN—」

佐古 丞「政治的リーダーの評価について」

〈第二回研究会〉

二〇一二年七月二二日

野中郁次郎「危機管理のリーダーシップ—福島原発事故調

査の考察—」

瀧井一博「伊藤博文と渡辺洪基・再論—知識国家論の先駆

者?—」

二〇一二年七月二二日

戸部良一「字垣—成待望論」

討論

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月二九日

庄司潤一郎「近衛文麿に見るアジア主義の変化」

畑野 勇「戦時経済体制運営における総理大臣のリーダー

シップ—その源泉と変遷—」

二〇一二年九月三〇日

中西 寛「吉田茂の外交指導」

小笠原正道「大正・昭和戦前期における『西郷隆盛』」

徳川社会と日本の近代化—一七—一九世紀における日本の文化状況と国際環境—

(研究代表者 笠谷和比古、幹事 佐野真由子)

〔共同研究員名〕

磯田道史、伊藤奈保子、岩下哲典、上村敏文、魚住孝至、

大川真、加藤善朗、上垣外憲一、郡司健、小林龍彦、小林

善帆、菅良樹、高橋博巳、武内恵美子、竹村英二、谷口

昭、芳賀徹、長谷川成一、原道生、平井晶子、平木實、平

松隆円、藤實久美子、前田勉、真栄平房昭、宮田純、宮崎

修多、森田登代子、横谷一子、横山輝樹、米沢薫、脇田

修、和田光俊、滝澤修身、辻垣晃一、伊東貴之、フレデ

リック・クレインス、瀧井一博、ウィーベ・カウテルト、

姜鸞燕

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年四月二七日

益満まを『辻蘭室文書』の基礎調査—辻蘭室の交友関係



を中心に―

原 道生「維新後の河竹黙阿弥―自作を活字化した狂言作者」

二〇一二年四月二八日

小林龍彦「中根元圭研究(一) 元圭の生涯の前半を中心に」

脇田 修「大坂〔大阪〕経済の展開」

武内恵美子「一八世紀における楽思想の展開」

討論

〈第二回研究会〉

二〇一二年六月二二日

瀧井一博「逆賊から東大総長へ―帝国大学初代総長渡辺洪

基の生涯」

前田 勉「一九世紀の藩校教育」

二〇一二年六月二三日

松岡明子「高松松平家伝来博物図譜について」

魚住孝至「『おくのほそ道』から終焉へ」

滝澤修身「日本キリシタン時代におけるヨーロッパ人及び

日本人の相互認識」

討論

〈第三回研究会〉

二〇一二年八月二四日

平木 實「一七〇一九世紀における文物交流による朝鮮・

日本両国の歴史理解の側面」

宮田 純「本多利用再考」

二〇一二年八月二五日

横谷一子「『絵本一休譚』にみえる一休禪師の虚実皮膜に

ついて」

磯田道史「一九世紀の藩政情報―諸藩見聞録の分析」

上村敏文「稻荷信仰の淵源と近世における展開」

総合討論

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化的分析―

ザ・タイガースの研究

(研究代表者 磯前順一、幹事 井上章一)

〔共同研究員名〕

浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、柿田肇、金谷幹夫、

金泰勲、中村俊夫、永岡崇、倉本一宏、細川周平、西田彰

一

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年五月一九日

磯前順一「文体論『ザ・タイガース大全』の叙述方法」

西田彰一「タイガース年譜に関する報告」

永岡 崇「タイガース関連雑誌記事に関する報告」

浅尾雅俊「一九六〇年代論基本文献に関する報告」

〈第二回研究会〉

二〇一二年七月二八日

磯前順一「昭和四十年代の日本音楽」

柿田 肇「関連記事、音源記録、ヒットチャート・ファン

投票に関する報告」

浅尾雅俊「一九六〇年代論基本文献に関する報告」

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月一日

中村俊夫「戦後日本歌謡の系譜（グループで音を出すこと

が画期的だった時代）」

磯前順一「小野善太郎氏作成資料の分析」

永岡 崇「ザ・タイガースと雑誌の六〇年代―『明星』『週

刊明星』を中心に」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正…過去の検証と将来への提言

（研究代表者 稲賀繁美、幹事 牛村 圭）

〔共同研究員名〕

テレングト・アイトル、鶴戸聡、大西宏志、小倉紀蔵、鞍

田崇、呉孟晋、小崎哲哉、近藤高弘、戦晁梅、千葉慶、

西田雅嗣、西原大輔、波嵯栄ジュニア、しょう子、橋本

順光、範麗雅、平芳幸浩、平松秀樹、藤原貞朗、シル

ヴィー・ブロッソー、クリストフ・マルケ、本浜秀彦、山

本麻友美、與那覇潤、李建志、渡邊淳司、張競、滝澤修

身、中村和恵、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

大橋良介、デンニツァ・ガブラコヴァ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年四月二七日

稲賀繁美「廃材金属が織り成す世界の隠喩…エル・アナツ

イ論」

大西宏志「物気色のアート…モノ学・感覚価値研究会アー

ト分科会の活動」

二〇一二年四月二八日

小崎哲哉「日本と東アジアにおける文化批評アーカイブの構築について」

近藤高弘「震災復興に向けた試みー『命のウツワ』

『HOTARU』と『比叡山』アートプロジェクト」

〈第二回研究会〉

二〇一二年九月三〇日

中村和恵「おまえはわたしたちに似ている——太平洋とカ

リブ海の文学者たちに問う近代日本人のポジション」

本浜秀彦「沖繩からの、『太平洋文学』への視座」

二〇一二年一〇月一日

デンニツァ・ガブラコヴァ「雑草性／へ島国の鳥」

万国博覧会とアジア

〔研究代表者〕 佐野真由子、幹事 劉 建輝

〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、岩田泰、鵜飼敦子、江

原規由、川口幸也、神田孝治、中牧弘允、芳賀徹、橋爪紳

也、林洋子、武藤秀太郎、稲賀繁美、井上章一、瀧井一

博、ウィーベ・カウテルト、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年五月一九日

佐野真由子「研究会趣旨について」

井上章一「吉田光邦先生の万博研究会を振り返って」

討論

岩田 泰「二〇一二年韓国・麗水（ヨス）万博日本館につ

いて」

〈第二回研究会〉

二〇一二年九月一五日

橋爪紳也「都市の世紀と万国博覧会研究」

劉 建輝「見られる自分から見せる自分へ——われわれは

いかに万博という近代的論理に組み込まれてきたの

か」

討論

二〇一二年九月一六日

市川文彦「近代バリ万博以降の万博史展望」

武藤秀太郎「二〇〇年後の再演？ 上海万博と南洋勸業

会」

青木信夫「中国における博覧会研究——その動向と背景、ならびに展望」

日本文化形成と戦争の記憶

〔研究代表者〕 セオドア・F・クック、幹事 鈴木貞美

〔共同研究員名〕

浅田裕子、一ノ瀬俊也、ベティナ・グラムリヒロオカ、加藤(野島)陽子、河野仁、川村湊、窪島誠一郎、小菅信子、M・G・シュフトール、庄司潤一郎、竹内栄美子、竹本知行、田辺明生、谷口幸代、田谷治子クック、坪井秀人、等松春夫、直野章子、中川成美、花崎育代、原剛、原山浩介、平瀬礼太、平野共余子、松竹京子、南誠、本康宏史、横山篤夫、吉田裕、李建志、多田伊織、稲賀繁美、末木文美士、戸部良一、ジョン・グリーン、磯前順一、郭南燕、佐野真由子、瀧井一博、劉建輝、堀まどか、石川肇

〈第一回研究会〉

二〇一二年七月二八日

趣旨説明、打ち合わせ

松竹京子、浅田裕子「小早川秋聲『国之楯』における戦争

と戦争画…『国之楯』画畢に到る年月の意味」

平野共余子「『日本の悲劇』—アメリカ占領下の日本映画」  
二〇一二年七月二九日

竹本友行「昭和の記憶と幕末・維新の『物語』—司馬遼太郎『花神』を中心に」

「心身／身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み—

〔研究代表者〕 伊東貴之、幹事 榎本 渉

〔共同研究員名〕

青木隆、新井菜穂子、恩田裕正、垣内景子、片岡龍、黒住眞、桑子敏雄、河野哲也、橘川智昭、小島毅、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英二、田尻祐一郎、陳継東、土田健次郎、手島崇裕、永富青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、鈴木貞美、ジョン・グリーン、劉建輝

〔海外共同研究員名〕

張翔、陳健成、フレデリック・ジラール

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇二二年四月二八日

桑子敏雄「無病息災の幸福論」空間の履歴と国土保全の思想」

フレデリック・ジラルル「ペドロ・ゴメス『講義要綱』の和訳における霊魂と身体の問題をめぐって」

〈第二回研究会〉

二〇二二年七月二八日

林 文孝「溝口雄三『中国思想のエッセンス』―異と同のあいだ』を評す」

関 智英「『中国思想のエッセンス』を手がかりに…近現代史の立場から」

伊東貴之「溝口雄三『中国思想のエッセンス』Ⅰ・Ⅱの編集に携わって」

〈第三回研究会〉

二〇二二年九月二二日

垣内景子「心学としての朱子学」

小島 毅「ふたつの正気の歌―文天祥と藤田東湖の死生観、その異同―」

総合討論

東アジア近現代における知的交流―概念編成を中心に

〔研究代表者〕 鈴木貞美、幹事 伊東貴之

〔共同研究員名〕

浅岡邦雄、阿毛久芳、荒川清秀、荒木正純、有馬学、磯部敦、井上健、今村忠純、岩月純一、王曉葵、岡田建志、梶山雅史、金子務、上垣外憲一、川島真、川尻文彦、衣笠正晃、木村直恵、権藤愛順、佐藤一樹、佐藤バーバラ、澤田晴美、全美星、須藤遙子、孫安石、孫江、高柳信夫、竹村民郎、竹本寛秋、田中比呂志、陳継東、陳捷、陳力衛、寺澤行忠、十重田裕一、仲方美子、中川成美、中嶋隆、野網摩利子、橋本行洋、林正子、兵藤裕己、平野健一郎、福井純子、増田周子、松田清、真鍋昌賢、村田雄二郎、リース・モートン、茂木敏夫、安田敏朗、安野一之、八耳俊文、山本美紀、吉岡亮、吉田比呂子、李梁、多田伊織、依岡隆児、小松和彦、稲賀繁美、磯前順一、郭南燕、フレデリック・クレインス、劉建輝、堀まどか、石川肇、韋立新、ハンス・マーティン・クレーマ

〔海外共同研究員名〕

馮天瑜、黄克武、麻国慶、章清、王中忱

〔研究発表〕

## 〈第一回研究会〉

二〇一二年四月二二日

金 泰勲 『天理教』という概念の誕生——教派神道概念を中心に」

ハンス・M・クレーマ 『宗教』概念の誕生——島地黙雷

におけるヨーロッパ体験と土着的遺産」

畔上直樹 『神社』『非宗教』概念と二〇世紀初頭の日本社会

——在地神職層の動向を中心に」

## 総合討論

## 〈第二回研究会〉

二〇一二年六月二三日

福井純子 「演芸と演劇のあいだ」

陳 凌虹 「日中における近代『演劇』の誕生——新派と文

明戯を中心に」

仲万美子 「一九三〇年代の満州における能楽関係者の『知識』／『場』の共有——『満鮮謡曲界』の記事分析を通して」

## 総合討論

## 〈第三回研究会〉

二〇一二年九月一五日

パネルディスカッション 「中村真一郎『青春日記』と旧制  
高校」

基調報告・依岡隆児

パネリスト・竹内 洋、鈴木貞美

司会・石川 肇

質疑応答

## 新大陸の日系移民の歴史と文化

（研究代表者 細川周平、幹事 瀧井一博）

## 〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、糸井輝子、栗山新也、小嶋

茂、佐々木剛二、高木（北山）眞理子、滝田祥子、竹村民

郎、一政（野村）史織、日比嘉高、松岡秀明、水野眞理子、

物部ひろみ、森本豊富、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、

早稲田みな子、高橋勝幸

## 〔海外共同研究員名〕

エドワード・マック、根川幸男

## 〔研究発表〕

## 〈第一回研究会〉

二〇一二年四月二八日

根川幸男「戦前期ブラジルの日系教育機関における子ども  
の生活世界―大正小学校の事例を中心として―」

小嶋 茂、森本豊富「移民研究の活用―移民学習教材開発  
の可能性―」

今後の研究班の方向性について

〈第二回研究会〉

二〇一二年七月一日

水野真理子「強制収容下での文学活動―一世、帰米二世の

日本語雑誌『鉄柵』を中心に―」

滝田祥子「ツリーレイクピルグリメイジと帰米の記憶」

総合討論「北米移民の文学と記憶」

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月一日

松岡秀明、日比嘉高 書評会「松井太郎『遠い声』」

細川周平「松井太郎氏インタビュー―映像を見ながら―」

総合討論「移民文学研究の課題の整理」

日記の総合的研究

〔研究代表者 倉本一宏、幹事 佐野真由子〕

〔共同研究員名〕

蘭香代子、有富純也、池田節子、石田俊、板倉則衣、井原  
今朝男、今谷明、磐下徹、上島享、上野勝之、小倉久美  
子、小倉慈司、尾上陽介、加藤友康、久富木原玲、小嶋菜  
温子、古藤真平、佐藤早紀子、佐藤信、佐藤全敏、佐藤泰  
弘、下郡剛、シャバリナ・マリア、末松剛、菅良樹、菅原  
昭英、瀬田勝哉、曽我良成、富田隆、中西和子、中町美香  
子、中村康夫、名和修、西村さとみ、畑中彩子、林友里  
江、カレル・フィアラ、藤本孝一、古瀬奈津子、堀井佳代  
子、松蘭斉、松田泰代、三橋順子、三橋正、森公章、山下  
克明、横山輝樹、吉川真司、吉川敏子、吉田小百合、近藤  
好和、荒木浩、稲賀繁美、井上章一、鈴木貞美、榎本渉、  
瀧井一博、マルクス・リュッターマン、門脇朋裕

〔海外共同研究員名〕

金恩淑、呉海航、鈴木多聞

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一二年五月二六日

松蘭 斉『『看聞日記』の研究―その日記としての性格を  
めぐって』

下郡 剛「琉球の日記」

## 基礎領域研究

### 韓国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 松田利彦

概要 研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

### 近世風俗未公刊資料解読（継続）

代表者 早川聞多

概要 センター所蔵の近世風俗資料の解読および変体仮名の解読演習を行う。

### 古文書研究（継続）

代表者 笠谷和比古

概要 前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録などの読解を行う。

### フランス語運用の基礎／応用（継続）

代表者 稲賀繁美

概要 フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせて必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

二〇一二年五月二七日

藤本孝一「貴族日記と紙背文書」

廣田浩治『政基公旅引付』をめぐる日記・文書・伝承の史料学―戦国期の在地社会と荘園領主―

カレル・フィアラ「古事記の本文と口頭伝承の名残を考える―古代文学の翻訳問題を中心に―」

〈第二回研究会〉

二〇一二年七月二一日

近藤好和「日記とは何か」

井上章一「ハリスとブロンホフの合間から見えること」

二〇一二年七月二二日

古藤真平『北院御室御日次記』治承四年十・十一月記について

磐下 徹「長和五年の藤原道長の『前例』」

有富純也「大饗における母屋と廂」

〈第三回研究会〉

二〇一二年九月一日

山寺、東北歴史資料館、多賀城碑・多賀城調査

二〇一二年九月二日

尿前の関、式内温泉神社、鳴子温泉、五大堂・松島調査